



「日進市わたしのまちのしあわせづくり新聞」第1号

事務局／日進市 福祉部福祉課・社会福祉協議会
TEL (0561) 73-1643(直通) FAX (0561) 72-4554
MAIL: fukushi@city.nisshin.lg.jp
HOME: <http://www.city.nisshin.lg.jp/>

- 「日進市わたしのまちのしあわせづくり委員会」とかわらばんへのご意見・ご感想をメール・電話・FAXで募集します。
- どんどんお寄せください。お待ちしております。

第2次地域福祉計画・第4次地域福祉活動計画の検討が始まりました。

みなさんこんにちは！

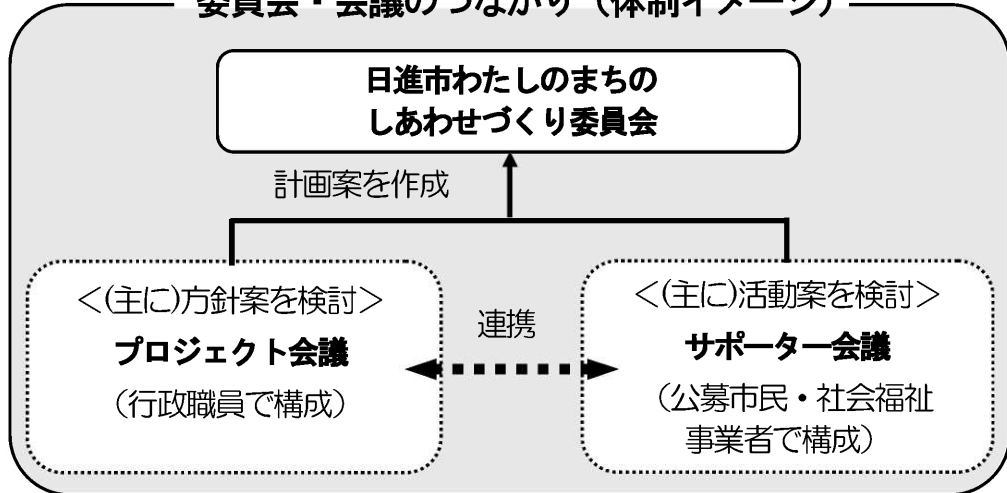
地域福祉計画・活動計画を検討する「日進市わたしのまちのしあわせづくり委員会」がスタートしました。この委員会では、日進市が平成17年3月に策定した第1次の日進市地域福祉計画の計画期間終了を目前に控え、平成27年度から平成36年度を計画期間とした第2次地域福祉計画・第4次地域福祉活動計画を策定していきます。

下図の体制イメージのように、計画策定に向けて行政職員で構成される「プロジェクト会議」では方針案を、公募市民・社会福祉事業者で構成される「わたしのまちのサポーター会議」では活動案を具体的に検討します。そして、各会議が連携していきます。

そして、有識者・市民活動団体・教育機関関係者・福祉関係者・公募市民・サポーター会議委員によって構成される「日進市わたしのまちのしあわせづくり委員会」では「プロジェクト会議」の内容を踏まえて、全市的な視点で議論を進めていきます。

これからの進捗状況をこの「かわらばん」等で報告していきますので、よろしく願います！

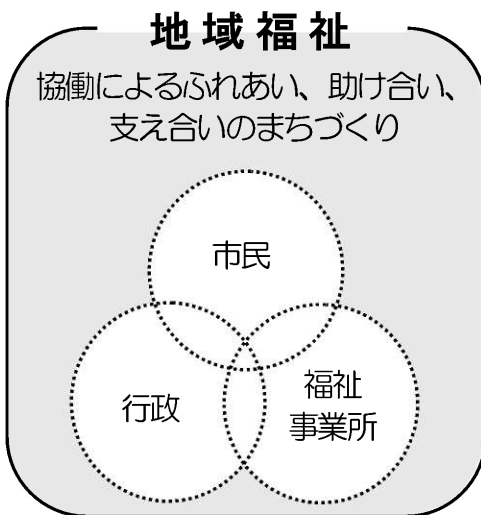
委員会・会議のつながり（体制イメージ）



<用語の整理（地域福祉・地域福祉計画・地域福祉活動計画）>

地域福祉とは？

「高齢者、障害者、子どもをはじめ全ての市民が身近な地域で安心して生活するために、市民が主体的に取り組む“ふれあい・助け合い・支え合い”の活動（しあわせづくり）」とその活動を支える仕組みや施策・事業」です。そのためには、市民が地域の問題に対して自ら解決にあたる力（自助）を高めるとともに、市民と福祉事業者、行政が協力し、お互いの役割を分担すること（共助）が大切です。もっと簡単に表現するなら、「福祉を切口とした、市民と福祉事業者、行政の協働によるふれあい・助け合い・支え合いのまちづくり」といえます。



地域福祉計画とは？

地域福祉計画のねらいを簡単に説明すると、1つめは、高齢者、障害者、児童といった対象者ごとに策定している福祉分野の個別計画の取り組み等を総合的に考え、補完していくこと。2つめは、市民と行政等のパートナーシップにより「ふれあい・助け合い・支え合い」の地域社会をつくっていくことです。

つまり、地域福祉計画は、行政の施策・事業を列記する行政計画ではなく、「市民による・市民のための行動計画」あるいは、市民と行政などが協働によって進める「パートナーシップ計画」という特徴を持った計画といえます。

地域福祉活動計画とは？

地域福祉活動は、地域住民や各種団体、民間事業者等の主体的な参加で行われる活動です。地域福祉計画の理念を実現するため、地域福祉活動を計画的・効率的に行えるよう、社会福祉協議会（社協）や各事業者、地域の住民、行政等との協働によって進めていく具体的な活動や事業の計画です。

<わたしのまちのしあわせづくり委員会>

第1回
2014. 4. 28

現にある組織、団体のつながり方・仕組みづくりや、本当に困っている方、拾えなかった声について、思いを寄せ、考えていく必要があると思います。（委員長の谷口先生）

この委員会では、全市的な視点で、本市における地域福祉の将来像をみすえた内容の計画になっていくように検討していきます。

初回のため、福祉部長や社会福祉協議会会長の挨拶の後に、委員長・副委員長が選任されました。

福祉コミュニティ意識調査とわたしのまちの座談会の成果報告、これまでの計画の成果と課題について事務局より説明がありました。これらに対する意見交換を行いました。このとき地域で活動している委員のみなさんから介護支援などについて、活発なやり取りがありました。

その後、策定体制や流れなどが確認されました。



福祉コミュニティ意識調査とわたしのまちの座談会で、いろんな課題がみえてきました。課題はこれから1年かけて検討していきます。



裏面へ続く

＜わたしのまちのサポーター会議＞

第1回

2014. 3. 15



第2回

2014. 5. 24

※1「アイスブレイク」
氷を溶かすように、緊張を
解いて、和んだ雰囲気を作
るアクティビティ。



サポーター会議では、並行して開催される「プロジェクト会議」と情報共有をしながら、地域の課題を検討・協議し、行動計画としての活動案を策定していきます。

第2回目は、「日進市の地域福祉について知ろう。そして想いを語ろう。」をテーマに開催。始めに自分のニックネームの名札をつくり、アイスブレイク※として「誕生日順に並んでみよう」で3つのグループを決めることから始めました。

第1回目は、椋山女学園大学人間関係学部谷口准教授によるミニ講演会や、各小学校区域の座談会の成果報告等から、市における地域福祉の将来像について、日進市にこんな計画が必要なのを学ぶことからスタートしました。



グループワーク「想いを語ろう!良いところ、イマイチなところ。」

◎良いところ<意見の例。以下同じ>
ほっとカフェ、ぷらっとホームがある。自然が多い。ゴミ出しがしっかりしている。若い世代が多い。など。



◎イマイチなところ
自治会行事への参加が減少傾向。活動場所が借りられない。世代交代が上手くいっていない。など。

◎良いところ
市民活動、民生委員の活動が活発。地域のつながりが残っている。学生が多い(大学が多数ある)。子育て世代に住みやすい。など。



◎イマイチなところ
市民の自分の参画する意識が薄い。複合的な相談を受けるところが少ない。地域のつながりが薄いところが多くなった。など。

◎良いところ
福祉実践教室を全小中高校で行っている。中学校で1年生全員へ認知症サポーター養成講座開催。



◎イマイチなところ
高齢者世帯が多い地域と少ない地域との落差が大きい。医療と介護の連携が不十分。市民への情報開示が少ない。各施設間の横の連携が少ない。など。

＜プロジェクト会議＞

第1回

2014. 5. 8



第2回

2014. 6. 16



プロジェクト会議では、「サポーター会議」と情報共有をしながら、行政の視点から地域に関わる課題を検討・協議し、今後の方向性を示す方針案を策定していきます。

第2回目は、「風呂敷を広げて考えよう!」意見の発散を恐れずに」と題して開催。まずは前回の振り返りや地域福祉のおさらいをしました。

第1回目は、サポーター会議と同様、ミニ勉強会から始めました。椋山女学園大学の谷口准教授に職員向け講演をしていただき、地域福祉に関する現状やこれから求められることなどプロジェクトメンバーの理解を深めました。



グループワーク=大風呂敷会議

A.地域福祉の活動の輪をひろげます

福祉会館を地域福祉の拠点として施策を展開しても良い。福祉会館で地縁コミュニティのつながりをつくる。自助・公助・互助。地域力に応じた仕組みづくり。など。



B.地域福祉の活動をささえます

ぷらっとホームを拡大。民間の施設を活用できないか。市民と市民のマッチングファンドや地域型クラウドファンディング等、効果的な活動資金支援策があると良い。など。



C.地域福祉の活動をつなぎ、大きな力に育てます

1つの目標を地域でつくってもらう。活動をやめた人をつなげる会をつくる。市外に就学や就業した家族に日進市に戻っておいで事業。など。

